

2020(令和2)年度第1回熊本市男女共同参画センターはあもにい運営審議会(書面審議)議事録

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い2020年度第1回の運営審議会は書面審議での開催となりました。運営審議委員宛てに以下の議題について記した資料を10月1日付けで送付し、それに対するご意見を10名中8名の委員からいただきました。

◎議題(議事資料項目)

2019(令和元)年度報告

- ①会館運営状況報告
- ②実施事業報告

2020(令和2)年度事業計画案

- ①編成方針
- ②事業計画
- ③実施事業報告

◎提出期限

2020(令和2)年10月30日(金)

◎書面審議参加者 参加予定者 10名

◎書面回答数 8名(井手志保、伊藤一敏、阪本恵子、中山敏子、伴 哲治、広渡純子、宮村飛伸、八幡彩子:敬称略)

以下に、委員からいただいたコメントおよびその対応を議事録としてまとめました。

令和2年度 第1回運営審議会 書面開催意見書から

1. 2019(令和元)年度報告

① 会館運営状況報告について

・令和元年度は来館者数、稼働率とも前年を下回っている。この要因は分析する必要があるが、今後の方向性としては単に「来館者数の増加・稼働率」を追求するべきではないと考える。人口減や高齢化など長期的な要因に加え、新型コロナウイルスの拡大で市民の意識が変化し、従来のように「人びとが大勢集まる」ことへのニーズが減る可能性があるからだ。(伴委員)

・Zoomをはじめとするリモートアクセスの普及で、貸室を借りて「人が集まる」ニーズは今後も減るだろう。今後、「はあもにい」の貸室を使って、リモートでの会議やイベントが催された際は、リモートでの参加者も来館者に準ずる利用者として評価すべきではないかと考える。(伴委員)

・「はあもにい」をはじめとする公共施設にこれから求められるのは「集客力」ではなく「発信力」ではないだろうか。建物や設備は老朽化するが、人間の知恵とアイデアは常に新しいものが生み出される。(伴委員)

・「はあもにい」は男女共同参画をテーマに、すでに強い発信力を持っている。リモートアクセスを活用し、「はあもにい」からの発信をさらに強化することが、これからの課題と考える。(伴委員)

→現在Zoomを使ってのオンライン講座を開催。また、貸室利用についても、有線LAN設備及びインターネット回線利用ができる環境を整備。

・コロナの影響で通常の利用に制限がかかっている状況なので、利用できるかできないか、できるとしたら、どのようなコロナ予防対策がとられているのか等、利用者が安心して利用できるように(不安な方も結構いらっしゃると思う)情報発信を丁寧にする必要があると思う。(広渡委員)

・施設・設備の改修・改善については、費用面で難しいところがあると思うが、トイレなどを含め全体的にもう少し明るく清潔な環境として整備できるといい。(広渡委員)

・コロナの経験を通して、社会のさまざまな面でこれまでのやり方の見直しが求められている。はあもにいも、これを良い機会として申請方法など手続きについても一度見直し、今の時代に合った利用者が利用しやすい方法を検討してはどうだろうか。(広渡委員)

・2019年度末は、新型コロナ感染拡大期で、会館利用、イベント自粛等の事情から、来館者・稼働率が減少したことは十分理解できる。(八幡委員)

・p.6(※1) そのような中で、食のアトリエ、食品加工室、リハーサル室Aなどは稼働率が増加しているが、これは何か理由があるのだろうか。(八幡委員)

→食のアトリエに関してはホール楽屋が感染症対策として人数制限が設定されたため、控室としての利用増。加工室は前年度の稼働数自体が少ないため、数件増えただけで率が大きく上昇する。リハーサル室Aは利用者が個人ということもあり、法人事業所に比べ活動に対する制限度が低くとも要因として考えられる。

・p.7(※2) グラフ下に「近隣施設の開業」とあるが、どのような施設だろうか?(八幡委員)

→中央公民館

・p.8(※3) 利用者アンケート:貴重なアンケートだと思った。寄せられた会館への意見は、会館の改善のために役立ててほしい。(八幡委員)

・1階エントランスがとても暗いので、照明の改善を行ってほしい。(伊藤委員)

→次年度以降の施設改善計画の中でLED照明改修を審議中。

(※1)運営審議会資料補足説明「各室とも3月の利用が前年度の半数に減少した影響で、利用者数、稼働率ともに前年を下回りました。」

(※2)運営審議会資料補足説明「近隣施設の開業などもあり、3月以外も前年度より利用が減っています。」

(※3)運営審議会資料「2019(平成31/令和元)年度会館利用者アンケートについて」

② 実施事業報告について

・新型コロナウイルス感染拡大で事業に制約がある中、自主事業に相当努力したと推察できる。(伴委員)

・男女共同参画や、幅広い世代の社会参画はいずれも重要なテーマだ。市指定事業①の「これからの男性の生き方に関する講座②～実践!プロキャンパーに学ぶ」のような男性向けの講座は、今後もぜひ展開を期待する。地域とかかわりを持ってないまま高齢になり、孤立するのは女性より男性のほうが。男たちに「しなやかな生き方」を伝える企画を今後も要望する。(伴委員)

・中止もあったり残念だが、はあもにい主催のオンラインでのイベント等を増やしていくのも良いのでは?(井手委員)

・計画通り順調に事業が実施されていたことは利用者にとってとても良かったと思う。(阪本委員)

・親子の触れ合いに関する催しが実施できたのは安心した。子どもたちにとっては数少ない楽しみだと思う。(阪本委員)

・コロナウイルスの感染拡大の影響で、ミモザフェスティバルも展示だけしかできなかったことは残念に思った。(阪本委員)

・コロナ禍においての事業の継続は難しかったことと思う。中でも多くの方々が見学・視察に来られた事に「はあもにい」の意義を感じる。(阪本委員)

・コロナウイルスにより、中止が相次ぎ大変だったと思う。リモートでの参加に慣れてきた人も多いと思うので、この機会にオンラインセミナーを増やしてみてもいいと思う。(宮村委員)

- ・p.11(※4-1) 男性参加者が多い料理教室はおもしろそうでよい企画。(八幡委員)
- ・p.11(※4-2) 女性のための再就職準備講座が中止となったのは残念。さまざまな取り組みを止めないために、zoom等での遠隔開催、講座の内容をビデオ(動画)に記録してYouTube等で視聴できるようにする、などの新しい取組の推進、そのための環境整備はぜひとも必要だ。会館そのものの環境整備もちろん必要だ。(八幡委員)
- ・p.12(※5) よんでよんでの会 一部中止は残念だが、ご家庭で、絵本等による読み聞かせの機会を持っていただけることを願ってやまない。(八幡委員)
- ・p.14(※6) ミモザフェスティバル 一部中止は残念。このような「まち」で活動する企画は、新型コロナ対応としては、中止もやむをえない。(中止としない代替アイデアがあれば、お聞かせいただけるとありがたい。)(八幡委員)
- ・p.15(※7) 冊子制作 熊本市のSDGs未来都市計画とリンクした取組は、今後益々充実させてほしいと思う。(八幡委員)
- ・p.15(※7) 視察対応:熊本県内外から多くの視察が行われていることは、はあもにい の取り組みが、高く評価されていることの証拠だと思う。対応よろしくお願ひしたい。(八幡委員)
- ・p.16(※8) 「クマモト・ウーマン」:さきがけの女性シリーズ 今後もいろいろな方の紹介を。今回、会館の講座等の紹介が多くなっているが、その反響・効果等、いかがだろうか。熊本のいろいろな女性の紹介も復活させてほしいが…。(八幡委員)

→男女共同参画基礎講座において、当館に展示紹介もしている「くまもと黎明期の女たち」の中から、その人物や活動、背景などの紹介を継続している。

- (※4-1)運営審議会資料事業報告 これからの男性の生き方に関する講座「スキレットを使った親子で簡単アウトドア教室」
- (※4-2)運営審議会資料事業報告 再就職準備講座「これから働きたい女性のための再就職準備講座」
- (※5)運営審議会資料事業報告 親子ふれあいに関する催し「よんでよんでのかい」
- (※6)運営審議会資料事業報告 「第8回ミモザフェスティバル」
- (※7)運営審議会資料事業報告 「男女共同参画冊子制作(GEジャーナル)」
- (※8)運営審議会資料事業報告 はあもにい提供ラジオ番組「クマモト・ウーマン」

2. 2020(令和2)年度事業計画案

① 編成方針について

- ・原案に賛同する。リモートアクセスの活用は今後の「はあもにい」の飛躍のカギになると考える。オンライン講座、講演は「どこでも受けられる」ことが最大のメリットだ。つまり、北海道だろうが海外だろうが参加できるわけで、集客にむけての発信力が問われる。SNSを通じた発信が成否を分ける。TwitterやFacebookを活用してホームページに誘導し、発信に相乗効果を持たせてはどうだろうか。一方、オンラインでの講座、講演は「聞くだけ」ではすぐ飽きられてしまう。参加者が手応えを感じられるような仕掛け(発言や質問の機会、レポートの提出、資料の共有など)で工夫する必要を感じた。(伴委員)
 - ・開館30周年と長い月日を活躍して来たことに敬意を表す。時代に沿った講座の在り方、テーマを実施してきたことと思う。このコロナ禍の中で出来る事が編成されていると思った。今まで遭遇したことのない状況のなかで、昨今の災害の発生の多さに自分や周りの人を守ることを考え共有することは大事だと思う。時代の流れによって違って来る生活の中の課題がしっかりと反映されていると思う。(阪本委員)
 - ・出前講座等、動画配信とかもやってみるとどんどん広げられるのでは？(井手委員)
 - ・ウィメンズカレッジ修了生への期待度が高い。対してメンズカレッジ修了生への期待が持てないのは、プログラムの充実度の違いかと思う。有料とした場合は、もっと充実されると思うので、期待している。(宮村委員)
 - ・(1)の③について(※9) コロナを経験し、新たに感染症流行下の防災、避難に関する課題が出てきたので、特に「防災出前講座」の重要性やニーズは増してくると思う。これに対応できる内容やスタッフ数の充実が必要になってくるのではないだろうか。(広渡委員)
 - ・(2)の⑤について(※10) 今年はコロナの影響により否応ない形で働き方を変えることが求められたが、今後はコロナに関係なく根本的な働き方改革が進むと思う。特に、その中で女性の働き方について、はあもにいが積極的に発信する良い機会となるのではないだろうか。(広渡委員)
 - ・(3)について(※11) コロナ禍でDV被害が多発している現状があり、防止への啓発がますます重要になると思う。特に、若年層に向けたDV防止啓発事業の推進をお願いしたい。(広渡委員)
 - ・(6)について(※12) コロナの影響により格差がさらに広がり、社会的な弱者の課題がより深刻になっていると思う。①～⑤の各取り組みのさらなる推進、充実を期待する。(広渡委員)
 - ・コロナ禍の状況で、メリハリをつけた編成方針を検討されており、好感を持った。(冒頭3行目「重点的取組事項」への注力等)(八幡委員)
 - ・メンズカレッジの新たな取り組み、「防災ポイントBOOK」を活用した講座のブラッシュアップ等、今年度の成果が楽しみだ。多様性配慮やキャリア支援が、コロナ禍でストップしないことを願う。(八幡委員)
 - ・テレワーク は、コロナ禍で注目を集めている。どのような進展があったのか、取り組み事例等知りたい。オンライン講座などの取り組みに伴い、センターのWi-Fi等の環境整備、zoom等を活用した生涯学習の拠点となるような環境づくりについても、この機会にぜひご検討いただきたい。(八幡委員)
 - ・熊本市の生涯学習体系の中に、男女共同参画推進に関するはあもにいの取り組みをどのように体系化し位置づけたらわかりやすいのか。生まれてから学校→職場→退職後 などの熊本市民の生涯にわたる生活に沿って、いろいろな講座等の取り組みがどのように実施されているのか、見える化に取り組んでいただくことも有効だろう。(八幡委員)
- (※9)運営審議会資料編成方針「感染症の流行下における防災や避難についての発信」
 (※10)運営審議会資料編成方針「女性の活躍推進とキャリア支援」「テレワーク推進」
 (※11)運営審議会資料編成方針「DV防止啓発」
 (※12)運営審議会資料編成方針「貧困・高齢・障がい等により困難を抱えた女性や性的マイノリティ等が安心して暮らすための環境整備・支援」

② 事業計画について

- ・原案に賛同する。「男女共同参画の視点に立った防災出前講座」では、例えば熊本豪雨で被害を受けた方の体験談をリモートで聞くなどの展開もあっていいのではないだろうか。防災・減災は「はあもにい」の重要な取り組みの一つに成長している。(伴委員)
- ・興味深い事業が多くある。新型コロナウイルス感染拡大の影響で休館や自粛等多く規制されたことは残念だが、コロナ禍においても出来る事を探し変更を加えながらしっかりと事業を完了出来ていることはスタッフの方々の日々の努力の賜物だと思う。(阪本委員)
- ・高校生・大学生を対象とした男女共同参画の啓発の重要性を以前から伝えていた。もちろん学校でも教育の時間があると思うが、これまで自身が関わってきた経験から、教科書だけでない、実践的な話が学生の心に届くようだと感じる場面が多かった。はあもにいでは、そのような意見を尊重して、高校生・大学生向けの講座を継続しており、ありがたく思っている。早い段階から男女共同参画に触れ、学んでこそ、その意義が本当に分かり、考え方が身につくと考えている。今後も継続して取り組まれることを希望する。(中山委員)
- ・実施済みのもの、継続中のもの、リアルタイムでのオンライン視聴にチャレンジするもの、延期状況など、資料にわかりやすく示してもらい感謝する。また、資料を、項目ごとに、見出しを色分けするなど、わかりやすく示され、配慮されたことがわかる。実施分については、事業の様子とともに、今回、マスク姿、サーマルカメラの体温チェック、フェイスシールドなど、今年特有の状況が把握でき、今年の記録として、貴重な報告書だと思った。いずれも企画性のある大切な事業ばかりだと思う。このような状況下だが、一人でも多くの方、特に、こうした事業を必要としている方に情報が届くことを願う。(八幡委員)